

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「枕草子」中納言参り給ひて」問題

中納言^①参り^②給ひて、御扇^③奉らせ^④給ふに、「隆家こそいみじき骨は^⑤得て^⑥侍れ。それを^⑦張ら^アせて^⑧参らせイむと^⑨するに、おぼろけの紙は、え^⑩張る^ウまじければ、^⑪求め^⑫侍る^エなり。」と^⑬申し^⑭給ふ。「いかやうにか^⑮ある。」と^⑯問ひ^⑰聞こえ^オさせ^⑱給へば、「すべていみじう^⑲侍り。『さらにまだ^⑳見^カぬ骨のさま^キなり。』となむ人々^㉑申す。まことにかばかりのは^㉒見え^クざり^ケつ。」と、言高く^㉓のたまへば、「さては、扇の^コには^㉔あらで、海月の^サな^シなり。」と^㉕聞こゆれば、「これは隆家が言に^㉖し^スて^セむ。」とて、^㉗笑ひ^㉘給ふ。^と言^えば、いかがは^㉙せ^チむ。

かゆうことこそは、かたはらいたきことのうちに^㉚入れ^ソつ^タべけれど、「一つな^㉛落としそ。」

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「枕草子」「中納言参り給ひて」 解答

ラ四用 ハ四用

サ下二用 サ四体

ア下二用 ラ変回

ラ変回

中納言_①参り_②給ひて、御扇_③奉らせ_④給ふに、「隆家こそいみじき骨は_⑤得て_⑥侍れ。それを

ラ四末 使役 サ四末 意志 サ変体

マ下二用 ラ変体

張ら_⑦ア_⑧せ参らせイむと_⑨するに、おぼろけの紙は、え_⑩張る_ウまじければ、_⑪求め_⑫侍る

断定 サ四用 ハ四終

ラ変体

ハ四用 ヤ下二末 尊敬 ハ四回

サ四終

エ_⑬なり。」と_⑯申し_⑭給ふ。「いかやうにか_⑮ある。」と_⑯問ひ_⑰聞こえ_オさせ_⑱給へば、「すべていみ

ラ変終 マ上一末 打消

断定

サ四終

じう_⑯侍り。『さらにまだ_⑲見_カぬ骨のさま_キなり。』となむ人々_⑳申す。まことにかばかりのは

ヤ下二末 打消 完了

断定

ラ変未

断定 推定

サ四用

見え_⑲くざり_キ。」と、言高く_㉑のたまへば、「さては、扇の_コには_㉒あらで、海月の_サな_シなり。」

ハ四回 サ变用 強意 意志

ラ変終 ハ四終

強意 当然

と_㉓聞こゆれば、「これは隆家が言に_㉔し_スて_セむ。」とて、_㉕笑ひ_㉖給ふ。

ハ四回 サ变用 強意 意志

ラ変終 ハ四終

強意 当然

とかゆうことこそは、かたはらいたきことのうちに_㉗入れ_ソつタベけれど、「一つな_㉙落としそ。」

ハ四回 サ变用 強意 意志

ラ変終 ハ四終

強意 当然

と_㉚言え_バ、いかがは_㉛せ_チむ。

サ变用 強意 意志

ラ変終 ハ四終

強意 当然